

子どもの「〇〇したい」を 引き出す工夫を



愛知教育大学

学長 野田 敦敬 氏

教育随想



令和2年7月1日

7月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
愛知教育大学
学長 野田 敦敬 氏
- この人に聞く…………… 2
フルート奏者
鈴木 菜穂子 氏
- 羅針盤…………… 2
音楽科指導員 杉山 雄一
- ふれあい…………… 3
根石小学校 教諭 鋤柄 由恵
- 特集…………… 4
安藤直哉 教育長に聞く
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8
戦後の復興
(昭和22年)
- この本を…………… 8

令和二年四月一日より、国立大学法人愛知教育大学の第十三代学長に就任しました。岡崎市の学校とは、平成九年四月の大学着任以来、長年に渡り、一緒に勉強させていただきました。

さて、この原稿を書いている四月末は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で大変な時期でした。これまで先生方は、子どもを元気に学校に登校させ、みんなで楽しく学習できる環境づくりに努めていらしたと思います。それが、どう学校以外の学習を促進するかを検討せざるを得なくなりました。これは学校教育の在り方を問う機会になっていると思います。学校教育は、集団で学ぶ場であり、対面で直接コミュニケーションをとることは、子どもの発達の上では、社会性・協調性等を

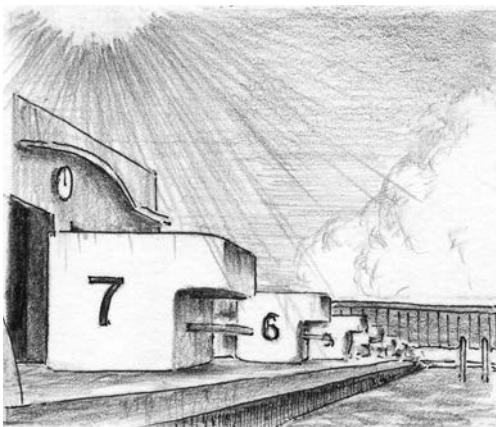
育む極めて重要な機会になることは言うまでもありません。しかし、この状況下において遠隔授業が注目されてきています。

私は、教室での授業にせよ、遠隔授業にせよ、いかに子ども主体の授業を展開できるかが鍵だと思っています。今次教育課程改訂のキーワードは「主体的・対話的で深い学び」です。子どもが活発に動いていけば、グループ学習をしていけば、主体的という訳ではありません。生活科学習なら「子どもの思いや願いを大切に」する、学習課題が自分事になるということですが、したがって、単元や授業の導入が大切となり、いかに子どもから「〇〇したい」を引き出すかが重要です。そのためには、教師の支援が必要となります。

改めて今、まず、この単元では、

この授業では、どんな「〇〇したい」を引き出すのかを明確にし、次に、そのためにどのような学習環境や布石、声かけなどの支援をすればよいのかを、じっくり考えてみてはどうでしょうか。

(のだ あつのり)





聴衆の心に寄り添う演奏をめざして

フルート奏者

鈴木 菜穂子氏

竜海中、岡崎高校、国立音大を経て、洗足学園音楽大学大学院を首席で修了。フルート奏者となる。

霧島神社での奉納演奏や戦没者慰霊式での演奏がフランス社会功労奨励章の審査員の目に留まり、文化芸術部門オフィシエを受章する。国内でも第十六回長江杯国際音楽コンクール第一位受賞など、多くの賞を受けた。現在も、テレビCMや各種イベントで演奏するなど、活躍の場を広げている。

— 音楽に熱中していったきっかけは何ですか —

趣味でトロンボーンを吹いていた父の影響で、三歳からピアノを、八歳からフルートを習い始めました。音楽に熱中したきっかけは、学芸会や合唱コンクールでピアノ伴奏を任せていただいたことや、中学校の吹奏楽部でたくさんの演奏の機会をいただいたことにあると思います。長

い時間をかけて一つの音楽を作り出す達成感を何度も味わってきたことが、今の私の音楽への情熱に直結していると思います。

— 音楽を続けてきて、辛かったこと、うれしかったことは何ですか —

もちろん、難しい課題に直面したときに、辛いと感じることはありますが、好きな音楽に関わっている時間は、私にとって幸せな時間です。むしろ、難しい場面に直面するほど、やりがいを感じて集中力も上がります。困難に当たったとき、考え抜いて行動すれば、たとえ一〇〇パーセントうまくいかなくても、少しでもよい方向へと向かうことはできるはずです。「辛い」「苦しい」という気持ちだけが心に残ることは、決してありません。

高齢者施設での出張演奏や幼稚園の音楽鑑賞会の演奏など、聴衆との距離が近い演奏は、笑顔や拍手がとて近く、感動します。お年寄りや子供たちと共に盛り上がることで聴衆との一体感を感じられ、うれしく思います。

— 今、どんなことに気を付けてお仕事をされていますか —

音楽家として舞台上に立ち続けるためには、音楽の質を維持するだけではなく、前回の自分に勝ち続けることが最も重要だと思っています。音楽を通して何かを伝えられるというやり、音楽家としての行動や生き方で、伝えたいことを示せる人間になりたいと思っています。表面的な技巧からは本物の感動は生まれません。演奏者の人間的な深みで舞台の質や作

品が変わってきます。そうした意味で、自分自身、内面をさらに成長させなくてはならないと思っています。

— これから挑戦していきたいことは何ですか —

数年前からフルートの演奏と並行して作曲家としての仕事もしています。今年初めて出すソロアルバムには、地元岡崎の風景をイメージした自作曲を収録しました。次の世代に残る作品を作ること、多くの人たちに恩返ししたいと思っています。

また、自分を育ててくれた岡崎で、子供たちと一緒に自分の作品を演奏することが今の夢です。

— 最後に、頑張っている岡崎の子どもたちにメッセージをお願いします —

どんなことも悩むよりはまず挑戦してみるべきです。良い結果が得られるかは分かりませんが、あきらめない限り可能性はあります。いろいろな分野に目を向け、興味をもち、好きだと思えることをたくさん見つけてください。自分が好きなことを続けたい、大切にしたいという気持ち、社会に出たときに頑張り続けるいちばんの原動力となります。

大人になり、違う土地に出てみると、自分が育った岡崎のよさが分かります。今の環境や文化、今過している時間を大事にしてください。



氏名 すぎき なほこ
生年月日 一九八七年
四月九日
住所 神奈川県川崎市



子供が主体的になる音楽科の授業

音楽科指導員 杉山 雄一

新学習指導要領では、自分の表したい音楽を実現するために、子供が自ら音楽表現を工夫し、追究していく姿が求められている。その基盤となるのが、「主体的な学び」である。

A教諭は、小学校三年生の教材曲「おかしな魔法使い」で、音楽づくりの授業に取り組んだ。この曲は、想像力を働かせ、魔法をかけるときの音を自由に作ることができると、楽しく取り組める教材曲である。

「さあ、魔法の音楽をつくってみよう」。A教諭の呼びかけで、魔法の音楽づくりの授業が始まった。子供たちは、前時までに、それぞれが決めたお気に入りの楽器を持ち寄る。音楽室は子供の鳴らす楽器の音であふれた。

児童Bは、前時に選んだ小太鼓を鳴らす。A教諭は「いい音だね。Bさんはどんな気持ちで魔法をかけるのかな」と問いかけた。Bは、「もつとおいしくなれっていう気持ちだけど、何か足りないんだ」と、言葉詰まらせた。この困り感こそBの主体性を引き出すチャンスとなる。すかさずA教諭は語りかける。「ただおいしただけはだめなんだね。では、もつとおいし



「おかえり」は合言葉

根石小学校

教諭 鋤柄 由恵

春。Aとの日々は、戸惑いの連続であった。休み時間に人懐っこい笑顔で友達と一緒に遊ぶAだが、授業になると一変する。独り言、授業に集中できない姿、そして、最後には教室から出ていってしまふ。その度に教室に連れ戻すという繰り返し。「どうしてこんなことするの」と、私が聞くと、何も言わないまま、Aの表情はますますこわばっていく。ある日の授業中、「A、うるさい。集中できない」と言い放った子供の一言に、私ははっとした。実際、誰もがAのことで我慢しているのかもしれない。逆に、この子供たちの言葉が、Aの居場所をなくしているのかもしれない。どうしたらお互いに認め合えるのか。果たして私自身、Aの気持ちに寄り添い、居場所を作ろうとしてきたのだろうか。様々な思いと共に、新しい学級作りをしなればと思った。

その日から、Aとの「お話タイム」が始まった。逃避先から教室までの帰り道や、家庭訪問先で、今までの一方的な指導ではなく、Aに寄り添う時間をもった。そのうちAは次第に、自分の胸の内を話すようになってきた。理由もなく、教室を出たくなることや、本当はみんなと一緒に授業を受けたいこと、クラスのみんなに迷惑をかけてしまったことなど、自分の思いを素直に話すうちに、笑顔も見られるようになっていった。「よくなかったと思うなら、Aさんがみんなのために、何かしてあげるのはどう。」

私のそんな提案に、Aは黙ってうなずいた。私は、背面黒板の週予定の記入をAに任せることにした。そして、Aへの理解や正しい関係作りのため、学級の子供たちにも話をした。

「みんなと同じようにAさんにも、得意なことや苦手なことがあるの。ずっと座っていることが苦手で、時々教室以外の場所で休憩することが必要なの。でも、本当はみんなと一緒に勉強したいんだ。Aさんは今、少しずつ苦手なことができるように頑張っている。だから、もし困っていたら助けてあげてほしいの。」

ある時、苦手な授業で、教室を飛び出したAが、しばらくして戻ってきた。私は「おかえり」と声を掛けた。それと同時に、みんなが「おかえり」とAを迎えた。Aの表情が緩み、照

れくさそうに席に着く。教室は、温かく心地よい雰囲気包まれた。

それから、Aは、自分の仕事を欠かさず行なった。そして、帰りの会の「友達のいいところさがし」で、徐々にAの名前が挙がるようになっていった。Aも進んで、仲間のよいところを発表した。こうして、みんな互いを認め合い、温かく拍手をし合う中で、徐々に、教室にAの居場所が作られていくのを感じた。

苦手な教科の授業には、まだ我慢できず教室から飛び出してしまふこともあるが、その回数も減った。そして、そんなAを、合言葉「おかえり」で迎える。今まで、できなかった給食当番や苦手なリコーダーの練習に挑戦するAの周りには、多くの友達と笑顔があふれようになった。



くなるための魔法を音で表すにはどうしたらいいだろうか。その時、Bは、「もっ」といういろいろな音があった方がいい」と、自分のイメージする音の実現のために、仲間の奏でる音が必要であることに気付いた。そして、友達の音に耳を傾けながら、自分の楽器をどう生かすかを考え始めた。そのようなBの姿を捉えたA教諭は「Bさんは、もっ」とおいしくするための魔法を考えているけれど、ちよつとBさんの魔法の音を聞いてみて」と子供たちに投げかけた。

しばらくしてBのグルーブの話合いが始まった。これまでの学びを振り返ることができる拡大楽譜を見ながら、子供たちは自分たちの表現したい音のイメージを共有する。青色の文字で書かれた「わくわくする」などの歌詞から感じた言葉、赤色の「はずむように」という音の出し方の工夫を表現した言葉が色分けして視覚化されている。これらの言葉を手掛かりに、自分たちの奏でたい音に近づけるように試行錯誤する。「鉄琴をばちですうつとなでたらいい音がするよ」「本当だ。連続でやってみたらどうか」「じゃあ、小太鼓はパンブキンパイができるよ」ときの音にしてみよう。児童Bは、話し合いを通して、仲間と共に音を重ねたり、組み合わせたりする楽しさを知った。そして自分の思いを音楽で表現するよさを感じたのである。

子供の「主体的な学び」を支えるには、子供の思いを捉え、課題解決に向かう力を引き出す教師の出が必要となる。自分の表現したい音楽を、主体的に追究する力を育てる授業が、今求められている。

これからの岡崎の教育を語る

安藤直哉 教育長を訪ねて



月報編集委員会では、教育長として三年目を迎える安藤直哉教育長を訪ね、編集委員長の清松治子校長がお話を伺いました。様々な課題がある中、未来を見据え、岡崎の教育を創っていくうえで、大切にしていきたいことを、安藤直哉教育長が語られました。



これからの岡崎の教育について、お考えをお聞かせください。

目まぐるしく変化していく現代においてこそ、目標をしっかりと定めることはとても大切です。そこで、岡崎市でも、様々な教育事業を展開できるように、教育振興計画を定めています。計画では、子供の「生きる力」を育てることが中心テーマですが、中でも「自立」「共生」「創造」の三つが大切であると考えます。

「自立」とは、学習指導要領で言えば、「自ら考え、自ら判断し、実践すること」です。自立と言っても生活的、精神的、経済的など、様々な自立があり、子供の発達段階によっても違います。しかし、いずれの場合においても、自分で考えて、判断して、実行することができる子供を育てていかなくてはなりません。

二つ目は「共生」。世界には、いろいろな人や宗教の子供が存在します。そして、グローバルな社会では、私たちはそうした人々と必然的につながるようになります。また、発達障がいやLGBTなど、様々な個性をもつ子供がいる中で、大切なのは、共に生きていくという考え方です。ま

ず隣の子と、そして、地域の人と、やがては日本、世界の人々と共に、問題を解決する姿勢を作っていかなければなりません。

三つ目は「創造」です。「創造」とは、単に、発明や物づくりだけの意味ではありません。むしろ、私たちにとっては、毎日を生きていくこと自体が創造と言えます。授業で新たなことを学ぶことも、社会の一員として新たな自分を作っていくことも創造なのです。

この「自立」「共生」「創造」という三つの力が、これからの時代を生きていく子供たちにとっての「生きる力」であり、また、これからの岡崎の教育で大切にすべきことであると考えます。そして、こうした力を効果的に育む手立ての一つが、ICTだと考えています。

岡崎版GIGAスクール構想についてお考えをお聞かせください。

これからは、飛躍的に情報技術などが発展し、今まで想像もできないことができる世の中になっていきます。無人の車や空飛ぶ車も実用化されようとしている、まさに『ドラえもん』の世界です。私たちが生まれた頃の五十年間と、今の五十年間

は全く異なり、進化のスピードが速くなっています。もちろん、実物に触れることや実際に体験すること、そして、人間同士の営みを大切にすることなど、私たちが求めてきた岡崎の教育が変わることはありません。しかし、今の子供たちが、未来で活躍できるようにするためには、最先端の環境を、子供たちのために作っていかねばならないのです。その環境の中で、正しい教育を受けるといことが、子供たちにとって必要であり、それが生きる力になると考えます。

幸い岡崎には、それを実現できる環境が整っています。教育委員会内に学校情報係を作り、県下に先駆けて計画の実現に向けて進めてきた背景があります。これまでの経験やノウハウにより、全教室Wi-Fi化や全児童生徒へのiPadの支給などが、現実になろうとしています。

今後は、その環境を当たり前にしていくと同時に、子供たちの未来のために、それらを積極的に活用していきたいと考えています。

**そうした環境の中で、当然「授業」も変わると
思いますが、具体的にはどうお考えですか。**

これからの学び方について私が考えるのは、一斉授業からの脱却です。これまでのように一対四十という構図の中で、息の長い発言や問い返しばかりで授業を進めても、関わり合いは生まれません。一人が一分話したら、四十分で授業が終わってしまう。果たしてそれで、子供たちに自己肯定

感をもたせられるのか、本当に子供たちに力がつけられるのか、満足感を味わわせられるのか、それを考えなければなりません。

関わり合いで大切なのは子供同士が関わることです。しかも、同質の子供が集まる「グループ」ではなく、様々な個性が集まる「チーム」での学習です。先生が教えるのではなく、子供たちが自ら学んでいく、そんな授業をしなければならぬと考えます。その授業での教師の役割は、正しくゴールを定め、そこに向かう道筋を作ることです。

もちろん、様々な子供がいるので、一律に目標を定めることは難しいですが、授業の中で、それぞれの子供が自分自身の手で「分かった」「できた」という思いをつかめるように、温かく支えていくことが、教師にとって必要なのだと考えます。

最後に岡崎の教職員に、メッセージをお願いします。

私が今まで大切にしてきた「すべての子供に光を当てる」教育は、これからも変わりません。

例えば不登校。本来、学校に来るといいうのは、憲法で子供たちに与えられた権利であり、保護者にはそれを実現しなければならない義務があります。しかし、実際には学校に来られない子がいます。様々な理由はありますが、他の何かのせいにしたと勝手に教育は終わってしまいます。私たちは、何とか工夫して、その子たちに光を当てなければならぬのです。今年、中学校三校に、フ

リースクールを作ったのもそのためです。フリースクールの担任がいて、勉強もできるし、遊ぶこともできます。ICTを使って、遠隔による授業参加や学び直しもできます。不登校の子にも、みんなと同じように、学び、成長する機会を与えていきたいと思うのです。

働き方改革も進んでいます。ICTを活用した「スマートワーク」が本格的に始動します。働き方改革で大切なのは、本当に子供たちのためになることを考えることだと思います。意識改革です。単に子供が喜ぶことを考えるだけでなく、本当に子供の力になること、子供の成長につながることを、教師が見極めなければなりません。

現在もまだ、新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の事態は終息していません。そんな逆境の中であるからこそ、教育の力を大切にしなければなりません。岡崎の教職員には、今置かれた状況で、工夫し、準備して、困難を乗り越えられる子供たちを育てていってほしいと思います。

常に、先を見据え、岡崎の子供たちの未来を考えていらっしゃる安藤直哉教育長の姿に感銘を受けました。
(清松治子編集委員長)





●小中学校のようす

令和2年度岡崎市内の小中学校の概要（五月一日現在）である。

昨年度と比較すると、一校当たりの児童・生徒数の平均は、小学校が一名の減少で、中学校が三名の増加となった。通常学級数は、小学校は一学級減少、中学校は三学級増加している。特別支援学級数は、小学校が十学級、中学校が二学級増加している。

岡崎市内の小学校の全児童数は、四十五名減少し、中学校の全生徒は、五十八名増加した。総数では、十三名の増加となった。

また、教員数は、十五名の増加となった。再任用教諭は、一一名（実数）である。

教員補助者は三名の増加で、二七三名である。そのうち二十一名は、養護教諭支援員である。小学校英語指導補助者（ST）は二十五名、外国語指導助手（ALT）は、三十二名である。

●学年別児童・生徒数（人）（令和2年度5月1日現在）

| 学年 | 小学校 | | | | | | 中学校 | | |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 1年 | 2年 | 3年 |
| 男 | 1,847 | 1,925 | 1,888 | 1,972 | 1,994 | 1,923 | 1,902 | 1,881 | 1,781 |
| 女 | 1,766 | 1,818 | 1,858 | 1,848 | 1,794 | 1,780 | 1,703 | 1,773 | 1,731 |
| 計 | 3,613 | 3,743 | 3,746 | 3,820 | 3,788 | 3,703 | 3,605 | 3,654 | 3,512 |

●学校・学級の規模（市内平均）

| | 小学校 | 中学校 |
|-------------|-------|-------|
| 1校当たり児童・生徒数 | 477人 | 539人 |
| 通常学級数 | 710学級 | 308学級 |
| 特別支援学級数 | 160学級 | 57学級 |

●児童・生徒・教職員数（人）（令和2年度5月1日現在）

| 区分 | 学校数 | 学級数 〈内特別支援〉 | 児童・生徒 (人) | | | 校長・教頭・教諭(人) ※再任用教諭・臨時的任用 講師(欠員補充)を含む ※養護教諭を含まない | 養護教諭・職員 (人) | 事務職員 (人) | 養護教諭 (人) |
|-----|-----|----------------|--------------|--------|--------|--|----------------|-------------|-------------|
| | | | 男 | 女 | 計 | | | | |
| 小学校 | 47 | 870 〈160〉 | 11,549 | 10,864 | 22,413 | 1,148 | 9 | 58 | 51 |
| 中学校 | 20 | 365 〈57〉 | 5,564 | 5,207 | 10,771 | 647 | 3 | 26 | 23 |
| 合計 | 67 | 1,235 〈217〉 | 17,113 | 16,071 | 33,184 | 1,795 | 12 | 84 | 74 |

(再任用ハーフは0.5カウント)

教職員の相談窓口

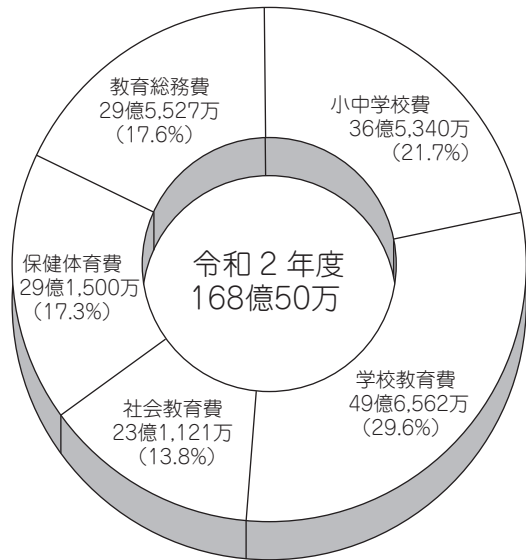
【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

| 番号 | 相談窓口 | 電話番号 | 相談受付日時 |
|----|-------------------|--------------|--|
| 1 | 岡崎市教職員相談ダイヤル | 0564-64-3322 | 火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30 |
| 2 | 岡崎市こころホットライン | 0564-64-7830 | 平日 13:00～20:00 |
| 3 | 愛知県総合教育センター教育相談 | 0561-38-2217 | 月曜日～金曜日 9:00～17:00 |
| 4 | あいちこころのホットライン 365 | 052-951-2881 | 年中無休 9:00～16:30 |
| 5 | 名古屋いのちの電話 | 052-931-4343 | 年中無休 24時間 |

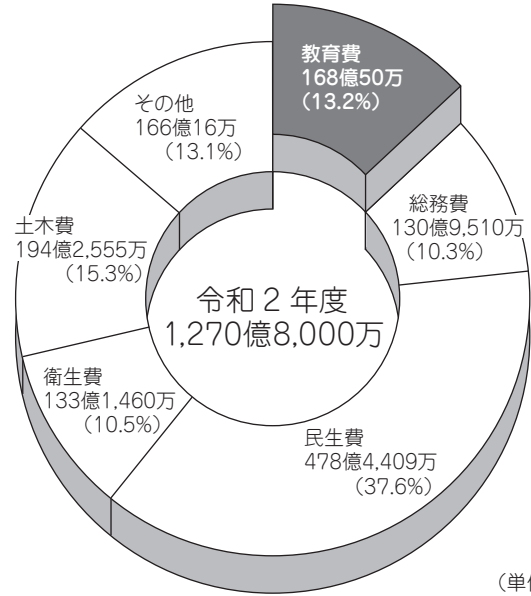
令和2年度 岡崎市の教育予算

市民の生活を守り、さらなる賑わいを生み出す予算

〈教育費の内訳〉



〈一般会計予算〉

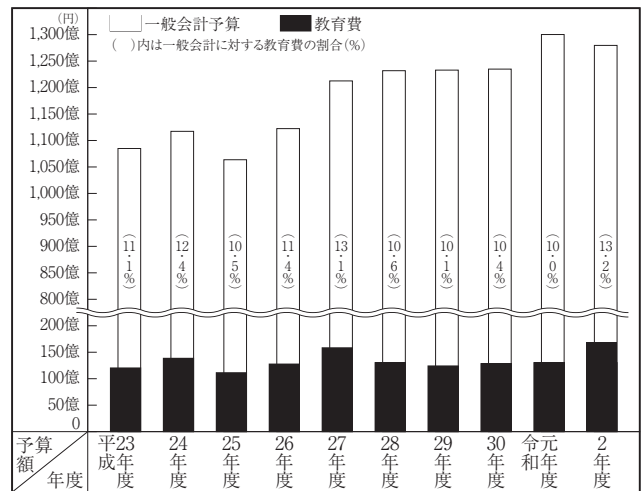


(単位 円)

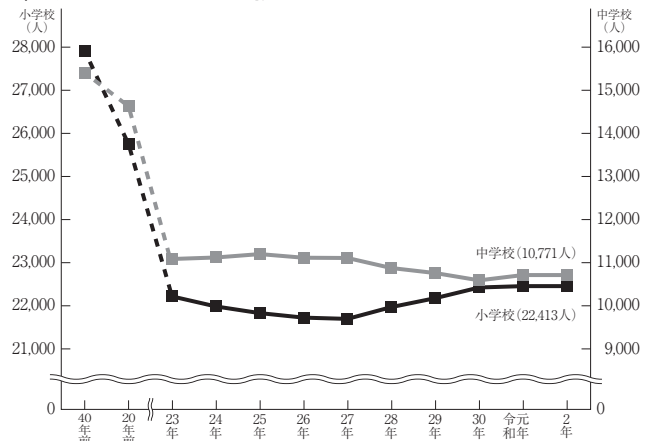
◆ 令和2年度 主な新規事業および拡充事業

- 【新規事業】**
- **校内フリースクールの開設…甲山中、福岡中、矢作中**
 ☆生徒の多様性への対応による不登校の未然防止
 ☆フリースクール利用生徒の自己肯定感や自尊感情の向上
 ☆個々の学習状況に応じた指導や配慮の充実化
 - **水泳授業支援(モデル校2校…愛宕小、新香山中)**
 ☆学校のプールで実施している水泳の授業を、民間のスイミングスクール施設で実施
 ☆児童生徒の水泳技能の向上
 ☆教職員の負担軽減及び施設の維持管理費の削減を図り、より安全で快適な授業環境の整備
 - **プログラミング学習用小型ロボット教材の配備**
 ☆「岡崎市プログラミング学習」で利用する小型ロボット教材を各小学校に配備
 ☆「情報活用能力」や「プログラミング的思考」等の資質・能力の育成
 ☆タブレット端末等のICT環境を有効活用することによる相乗効果への期待
 - **教職員の働き方改善・業務の効率化**
 ☆教職員の多忙化解消や働き方改善の推進
 ☆「スマートアクセス」(職場外アクセス機能)や既存のMicrosoft ライセンスを有効活用したクラウドサービスの採用により、コストの低減と教育活動の充実、質的向上を図る
 - **防犯カメラ設置**
 ☆不審者の侵入対策のため、児童生徒が登下校で使用する門に設置
 ☆令和6年度までに全ての小中学校に設置予定
 ※令和2年度設置校…5校(男川小、羽根小、六名小、広幡小、城南小)
- 【拡充事業】**
- **スクールソーシャルワーカー3名の常勤化**
 ☆増加傾向にある家庭に問題を抱える児童生徒への積極的対応
 ☆指導支援が必要な家庭への迅速な対応
 ☆学校や関係機関との連携による包括的な支援
 - **「そよかぜ相談室」就学相談員の増員**
 ☆適切な支援に対する需要の高まり
 ☆特別な支援を要する児童生徒への適切な就学先の検討、教育支援体制の整備
 - **日本語初期指導教室「プレクラス」(小学生クラス開設)**
 ☆対象学年：小学校4年生から6年生
 ☆学校生活に必要な日本語、生活習慣や日常会話などを、約3か月集中的に学習
 ☆令和2年度より指導員を増員。初期指導の充実化

◆ 一般会計予算と教育費の推移



◆ 児童・生徒の推移 (数字は毎年5月1日現在)



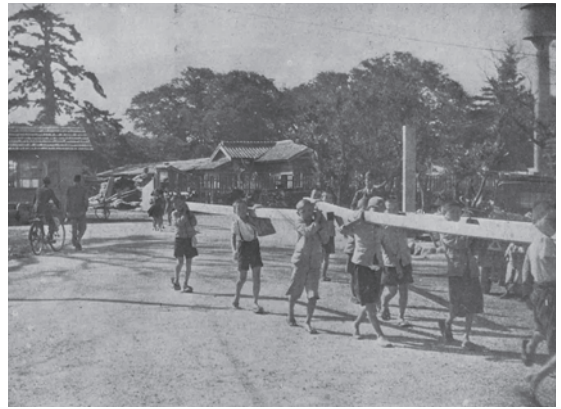
・カ
ツ
ト

福
岡
中
山
田
周

戦後の復興 (昭和22年)

写真提供：連尺小学校

連尺小学校の前身である玉山学校の開校から数えて、間もなく一五〇年となる。その間、学校は幾多の苦難を乗り越えてきた。写真は、昭和二十二年、第二次世界大戦によってなくなった校舎の再建のため、建設作業を手伝う小学生の姿である。場所は、現在の中央図書館「りぶら」の辺り。左奥にそびえるのは、現在の正門横に切り株のある「允文館の松」である。「僕たち、私たちの学校ができるのだ。今日も柱を十本運んだよ」と写真のト書きにある。復興を支えてきたのは、自分たちの学校を自分たちの手で作るという子供たちの希望である。戦後、市内でも多くの学校で、学校復興のため、子供たちは希望を胸に勤労奉仕を行ってきた。いくつもの困難を乗り越えて、私たちは今の平和な時代を築いてきた。そしてそれを支えてきたのは、子供や教職員の平和への希望である。



共に生きるという感覚がこれからは重要だと教育長は語る。グローバル化が進み、ますます多様な価値観が広がる中で、共生の考え方はより重要となる。学校においても、子供たちの学び合いによって人間関係は改善される。子供の共生の力を伸ばす視点が、教師には必要となる。

とホ

文目



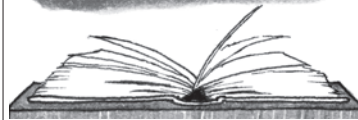
▲水泳部再開

ホールでの演奏会同様に、幼稚園や高齢者施設での演奏を大事にする鈴木氏。演奏者と聴衆との距離が近い分、その一体感は一層大きくなると語る。授業も小手先の技術だけではできない。子供に寄り添い、心に語り掛けられたときに学びの感動は生まれる。

ホツ

通常の夏とは違う夏が始まる。教師と子供、共に力を合わせ、学校における夏の「新しい生活様式」を創造する。ピンチをチャンスに。「できない」とあきらめるのではなく、「今だからできることがある」と岡崎の教師は知恵を絞る。すべては子供たちの笑顔のために。

この本を



***学校に入り込むニセ科学 左巻 健男**
平凡社 ¥840

心に残った一文
ニセ科学は「善意」と「感動」とに
弱い教員を主なターゲットにする。

ニセ科学は、「科学を装い、科学っぽい雰囲気を出す科学でないもの」を指す。著者が本書で取り上げるのは「水からの伝言」「EM菌」「ゲーム脳」「江戸しぐさ」など多岐にわたるが、それらのニセ科学（ニセ脳科学、ニセ歴史学）が「善意や感動の衣をまとっている」ことが教員の目をくらませているという。

学校は文化の総体を次世代に伝えるところでもある。だから、私たち教員は「確証バイアス」に陥ることなく、正しい知識をもつために研さんを積まなければならない。「知は力」であることを子供たちにしっかりと伝えていきたい。

- *こども六法 山崎聡一郎 ¥1,200
- 弘文堂
- *最後の講義 大林 宣彦 ¥1,300
- 主婦の友社
- *友だち幻想 草野 仁 ¥740
- ちくまプリマー新書 常磐中 石川 敏幸